
KNIGHT-ナイト

GOT

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

KNIGHT - ナイト

【Nコード】

N9510K

【作者名】

GOT

【あらすじ】

かつて七つの宝剣が戦争を引き起こした。

火、水、風、土、光、闇、音のそれぞれをつかさどる宝剣は膨大な力を含み、それを欲しようとする者達が争いを引き起こした。

結果、生き残った七人の者達がそれぞれ一つの宝剣を手にし終焉した。

再び戦争が起こるかもしれないと思った大政府は、宝剣を手にした七人に国と地位と権力を与え、与えた国の領主になり国民を守ることを義務付けられた。

そうすることで人々は不自由のない暮らしを与えられるはずだったが、後に新たな争いが引き起こることになるとは誰も予想していなかった。

プロローグ（前書き）

この小説は

剣や魔法あり

暴力的シーンあり

小さな下ネタ発言があります

上記の内容が苦手な人はおすすりめしません

プロローグ

その日は雨が降っていた。周囲にはドレスを着た女性やスーツを着た男性が大勢墓の前に並んで小言を呟いている。

「お可哀そうなことに．．．」

「お子さん一人を残して逝かれるなんて．．．．．」

俺は聴覚がいいわけでもないのに、まして雨が降っているのに、何故か周りの声が鋭く耳に入ってきた。

そう、母が死んだ。殺されたわけでもない。死因は昔からの病だ。

母は昔から体が弱く、医師からは「いつ死んでもおかしくない」言われていた。

だけど母はいつも笑顔でいてくれた。たまに咳き込んだり、急に倒れたりもした。

俺は母が好きだった。だから許せない。死んだことを悲しむより、葬式にさえ帰って来ない父を殺したい程に。

父は帝都の騎士団総長を勤めている。だから葬式に出席しなかった理由を仕事にのせいにするのを許せなかった。

この時俺は、

”力づくでもあの男を母の墓の前につれて来る”と。

それから数年して、俺は帝都騎士団に入隊した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9510k/>

KNIGHT-ナイト

2010年10月11日10時12分発行